歴代会長からのメッセージ

記憶に残るアメリカ医療の視察

大阪府病院協会名誉会長
社会医療法人大道会会長
大道　　學

大阪府病院協会がめでたく創立70周年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

昭和47年（1972）の野木一雄会長のときに理事を仰せつかり、30年間もの永きにわたり大阪府病院協会の役員を務めさせていただきました。その内の平成８年（1996）４月から２期４年は会長として務めさせていただきました。

私は97歳になりますので曖昧な記憶となりますが、当時の役員の皆様とよく勉強したことを思い出します。

昭和61年（1986）に厚生省の医業経営の近代化に関する懇談会委員、平成元年（1989）に医療審議会委員、平成８年（1996）には医業経営と患者サービスの向上に関する委員会の委員などを拝命していたのですが、会議が終わって大阪に戻りますと役員の先生方が、いち早く中央の情勢を知りたいとお集まりになり、時間を忘れて情報交換を行なったことが思い浮かびます。今とは違って、分厚い紙の資料を持ち帰り、皆で熱心にその資料を読み解き、喧々諤々の議論を行っていました。そのようなことを通じて、より親密になり連携と協調が図られたことと思います。

もう一つの思い出は、アメリカ医療の視察です。米国医療の重要さを学ぶために親友の大浜方栄参議院議員（※１）の勧めで、日本大学教授の大道久先生（※２）と私の３人でアメリカ医療の視察を行い、実態を知ることができました。その後、昭和61年（1986）７月に大阪府病院協会・大阪府私立病院協会の後援を得て、私が団長となり、きつこう会の多根要之助先生、愛仁会の中後勝先生、多根総合病院の海北幸男事務長、当法人の天野など25名の参加を得て、「アメリカ医療の近況視察」を実施しました。視察のポイントとしたのは、①DRGをめぐる病院の対応、②PROによる医療審査の実体、③公的保障・メディケアの行方、④低医療費、低コスト保障 HMO/PPOの実体、⑤中間施設と在宅看護の実体、⑥米国

医師の活動状況とし、帰国後には163ページからなる視察報告書をとりまとめ、内外に供しました。

アメリカの医療費抑制政策や開業医と病院の連携、入院患者の減少、早期退院と在宅看護の連携などの実態を視察できたことは、病院を運営している者にとって役に立つ事例ばかりでした。単なる視察に終わるのではなく、報告書をまとめたのは意義のあることであったと改めて感じています。

当時は、アメリカに追いつき追い越せという発想がありました。けれども、今の日本は世界に例がない超高齢・少子社会を迎えており、日本独自の医療政策が必要になります。大阪府病院協会は、日本の医療をリードする専門団体の一つです。新しい発想で今後とも国民のための医療政策を提言されるよう期待しています。

※1　大浜方栄先生：医療法人/社会福祉法人/学校法人 おもとグループ（元）理事長
沖縄県医師会（元）会長

※2　大道　久先生：日本大学名誉教授

医療崩壊からの脱出

大阪府病院協会名誉会長
社会医療法人きつこう会会長
小川　嘉誉

昭和62年（1987）に27年間の阪大病院の勤務を終え、民間の多根総合病院の院長に就任し、その翌年、当協会の理事になった。

当協会の副会長としては、平成10年（1998）～平成12年（2000）・大道學会長のもとで、平成12年（2000）～平成16年（2004）は滝一郎会長のもとで活動させていただいた。そして、平成16年（2004）４月１日に会長に就任し、それから２期務めさせていただいた。

今回、会長在任期間中に最も印象に残っている出来事について執筆せよとの事ですが、20世紀から21世紀への転換期で、国内でも世界でもあまりにも多くの出来事があり、会長職前後の背景も同時に知らないと理解しにくい。**【表１】**

まず、小泉内閣による医療費抑制策に、医師臨床研修の義務化による医師不足が重なった結果、医療崩壊という言葉が医療界を風靡した時に会長に就任した。

さて、会長としてこの課題にどう対応すべきか、早期に解決できる回答は具体的に何もなかった。ただ、いえることは、一政治家の一声で医療制度改革や診療報酬改定が左右されることはあってはならないことは明らかである。その為には、まず医療人の団結が必要で、現状の情報を十分に分析し、政策提言を行い、国民が納得する政策を行うべきである。

当協会は、公的、私的病院を含んだ団体であり、多くの点で異なった背景を持っているが、どちらかといえば、医療の質の維持、向上に重点をおいた政策提起が出来ればと考えた。そして、これまで以上、私病協、医師会、その他の関係諸団体との関係を密にすべきと考え、活動したつもりである。**【表２】**

これまで診療報酬のアップを求めることはもちろん続けられたが、必ずやってくる高齢、少子化時代をきちんと把握した将来を見つめた社会保障像の議論が十分なされていなかった。それが、社会保障国民会議報告がなされ、社会保障と税の一体改革を含めて国民の多くの理解を得、10年振りのプラス改定でひとまず医療崩壊から脱出できた感があった。ただ、この流れにも民主党の野田首相の声が大きく関与した。この様に個人の考え方が良い様に働

く場合もあった。これで私の会長時代の活動は終わったが、まず、医療人の団結、正確な情報提出、将来像に基づいた政策提言など政治を動かす体制が必要だと感じた。

ただ、昨今の病院経営状況をみるとインフレ時代の対応は、あまりこれまで考慮されていない。「社会保障と税の一体改革」をまとめられた権丈教授が「税と社会保険料は“悪”」に危機感と発言しておられるのには、私も同感で、また同じ事を繰り返すのかと思いたくなる今頃です。

【表1　副会長・会長時代周辺の主な出来事】

副会長		
	医療制度	社会情勢
平成12年（2000）	**介護保険導入** 第4次医療法改正	医師法改正 **（臨床研修必須　他）**
平成13年（2001）		**小泉内閣誕生** **「聖域無き構造改革」** **同時多発テロ（ニューヨーク）**
平成14年（2002）	**診療報酬　改定** （マイナス2.7%） **史上初の本体マイナス改定**	イラク戦争
平成15年（2003）	**医療提供体制の** **改革の基本的方法** 被用者本人　3割負担 介護報酬　マイナス2.3%	
会　長		
	医療制度	社会情勢
平成16年（2004）	**病床区分届出法** （一般病床　療養病床） 植松日医会長　当選 **医師臨床研修の義務化** 診療報酬改定（本体±0%） 中医協改革	**医療崩壊** 医療費抑制 医師不足
平成18年（2006）	**最大マイナス改定** 診療報酬　-3.16% 介護報酬　-2.4% 医療制度改革大綱	
平成20年（2008）	後期高齢者医療制度 診療報酬改定　-0.82% **社会保障国民会議報告**	バラク・オバマ大統領　就任 民主党政権交代
平成21年（2009）		世界金融危機 （リーマンショック）
平成22年（2010）	診療報酬改定　+0.19% **10年ぶりのプラス改定**	
平成23年（2011）	**社会保障と税の一体改革** （2014年　消費税　8%） （2015年　消費税　10%）	東日本大震災 **野田佳彦　内閣**
平成24年（2012）		12月16日　衆議院選挙 12月26日　第2次安倍晋三内閣

【表2　会長時代の主な事業】

平成17年（2005）	10月2日 第13回　大阪病院学会 国民に理解され支持される病院
平成18年（2006）	大阪府病院協会　創立50周年 大阪府私立病院協会　創立30周年 同時開催
平成19年（2007）	そのままでは壊されてしまう日本医療 大阪府民集会
平成20年（2008）	1月29日 社会保障国民会議 第1回会合 （座長　吉川　洋） 7月26日 医療崩壊を阻止する大阪府民集会 8月7日 病院長・幹部職員セミナー　アルカディア市ヶ谷　私学会館 「医療崩壊から再生へ」～その道のりを探る～ シンポジウム「医療再生へ向けての処方せん」 11月4日 社会保障国民会議　最終報告

会長在位期間中の印象に残ること

大阪府病院協会名誉会長
社会医療法人生長会
ベルランド総合病院名誉院長
福原　　毅

会長在任は2014年（平成26年）から2018年（平成30年）までの２期４年であった。その間の最も印象に残っているのは、医療提供体制を変化させようとする動きである。団魂の世代が全て後期高齢者となる2025年の医療、介護の在り方についての議論が盛んに行われていた。少子高齢化、人口減少社会への急速な進行は、わが国の社会環境、経済や社会保障に深刻な影響を及ぼしかねないと懸念され、2025年問題の解決が急務とされていた。法律の整備も一挙に進んだ。

2014年（平成26年）第６次医療法改正が施行された。

・病床機能報告の創設
・医師、看護師勤務環境改善（これが後には働き方改革になる）
・地域医療構想の策定　などが含まれる。

その他に

・医療介護総合確保推進法
・病床機能報告制度策定　なども成立した。

2015年（平成27年）地域医療構想策定ガイドラインが公表された。それによりまずは病床機能報告が始まった。

国の方針に則り、大阪府でも大阪府医療計画、地域医療計画などがまとめられた。

病床機能報告制度に加えて地域医療構想調整会議、二次医療圏毎に保健医療協議会などの会議体が組織され議論が始まった。

さらに医療、介護を含めた地域包括ケアシステムとしての概念が確立された。

大阪府では2025年の必要病床数は、既存病床数を大きく上回る見込みであり、約１万床不足するとの推計がなされた。

地域医療構想調整会議、病床機能懇話会で病床機能の検討、各圏域における医療機関が担う機能が検証された。しかし、自主的な病床転換の議論には至らなかった。病床機能については、大阪アプローチにより構想を推進していくことが決定された。

地域医療構想を中心に病床機能の分化連携のもと医療提供体制の大変革が始まった4年間であった。

会長時代を振り返って

大阪府病院協会名誉会長
八尾市立病院特命総長
佐々木　洋

2012年に川合会長（当時）の下で2年間、さらに2014年から福原会長（当時）の下で4年間、計6年間副会長を務め、その後2018年から4年間会長を務めさせていただきました。

会長に就任した2018年ごろは、病院関連３大テーマである①地域医療構想、②勤務医の働き方改革、③医師偏在の是正、のうち、地域医療構想は、各２次医療圏での医療・病床懇話会や病院連絡会の第1ラウンドがほぼ終了し、本格的な議論が始まろうとしている時で、勤務医の働き方改革、医師偏在の是正、は議論が始まったばかりという感じでした。特に地域医療構想に関しては、地域医療調整会議などで、多くの議論に参加させていただき、また、地域医療構想アドバイザーを仰せつかるなど、色々勉強させていただきました。

会長就任後、①多くの会員に興味をもって読んでいただけるように「大阪府病院協会ニュース」の内容の充実［論説、リレー随筆、病院紹介(これらは副会長時の企画)や、在米日本医師のコロナパンデミック時のニューヨークでの医療崩壊のリアルなレポートの臨時掲載、など]、②会員名簿の作成、③臨時総会や総会後の、会員の先生方を対象とした特別講演（専門医機構副理事長の兼松孝之先生、厚労省医務技監の鈴木康裕先生、旭川赤十字病院の牧野憲一先生等）と意見交換会の設定、④理事間のコミュニケーションを図った夏の太閤園での納涼懇親会（③④は、コロナのために中断)、⑤大阪府の医療行政の担当者を理事会に招き、コロナ対策や地域医療構想など最新の情報を報告いただき、議論する場を設定、⑤私立病院協会との共同で、会員病院のコロナによる経営状態悪化の現状をアンケート調査し、調査報告書を作成し、協会ニュースに掲載すると共に、大阪府知事に要望書を提出、など色々知恵を絞って新しい企画を試みました。

しかし、私が在任中で最も印象深い出来事はなんといってもコロナ感染症です。特に、後半の２年ほどは、ほとんどがコロナ対策に追われ、大変忙しい思いをしました。大阪府新型コロナウィルス対策本部専門家会議や、大阪府新型コロナウィルス感染症対策協議会の委員を拝命し、多くの会議への出席もさることながら、短時間での意見書の提出を求められ、夜中遅くまで意見書を作成したことも、今となっては貴重な思い出です。2021年4月～5月のGWごろの第４波時には、コロナ重症患者が急増し、確保病床のキャパを超えてしまい、多

くの患者が入院できない事態に陥り、自宅待機中に死亡する患者が発生するなど、まさに医療崩壊に片足を突っ込んだ状況になりました。この時は、コロナ患者の病床確保のために、大阪府病院協会もその一翼を担いました。また、大阪府でのコロナの感染のまん延状況や医療現場における緊迫した状況に関して、マスメディアからの出演依頼も多くありました。何とか大阪のコロナ医療のひっ迫状況を多くの人に伝えたいと思って、できる限り出演しました。良くも悪くも、色々な反響があり、これも大変貴重な思い出です。コロナを契機に大阪府病院協会の存在意義や注目度は以前より増し、活動範囲も広がったと思います。

大阪府や医師会の多種の委員会や審議会に参加させていただき、個人的には、多数の新しいことを学ばせていただき、大変充実した実りある４年間でありました。